

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人大利根学園
大利根ふじこども園

1. 本園の教育目標

子どもひとりひとりを大切に、豊かな子どもの育成を目指し、「やさしく たくましく げんきなこども」を教育・保育の目標として、次の3項目と6つの目指す幼児像を掲げる。

- みんななかよく・・・思いやり
 - ・約束を守り、仲良く遊ぶ子
 - ・人の痛みのわかる、思いやりのある子
- 自分のことは自分でできる・・・自立心
 - ・友達と遊び、健康でたくましい体をつくる子
 - ・人の話をよく聞き、自分の考えや思いを話すことができる子
- つよいからだとやりとげる心・・・生きる力
 - ・元気にあいさつができる子
 - ・生き生きといろいろなものに興味を持つ子

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

本園の教育目標を達成するため、保育内容・環境を見つめ直し、より子どもの育ちにつなげるとともに、園生活の中での幼児ひとりひとりの成長を保護者に伝え、保護者とも園児についての情報を共有し共通理解をはかることで、よりよい保育に生かしていくようにする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	子どもの人権と子ども理解	B	ひとりひとりの子どもの思いや自主性を尊重し、教育・保育活動に取り組んできた。各クラスにおいて子どもと担任とが信頼関係を深め、子どもたちが、自分の思いや考えを先生や友だちに伝えられるように個に応じた対応を工夫してきた。
2	保護者への対応	A	子ども一人ひとりの育ちの過程、その子らしさや特性を理解しながら、保護者と共通理解を図ってきた。子どもの成長や変化を保護者に伝え、喜びを保護者と共有するように心がけた。また、保護者の子育てに対する悩みや思いに寄り添いながら面談するなど個別に対応してきた。
3	健康・安全	B	災害時の避難訓練や施設・設備・遊具の安全点検を定期的に行い、不備が見つかった場合は、迅速に対応している。訓練がマンネリ化しないよう工夫しながら行っている。ヒヤリハットの事例を蓄積し、事故防止に役立てるよう心がけているが、記録を残す習慣化を図るのが難しい。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理 由
B	教職員は子どもとのコミュニケーションをたくさん取り、ひとりひとりの個性を理解し、興味・関心をもとに子どもの自主性を生かした保育を心掛け進めてきた。保護者とも直接話す場面が増え、保護者のとの面談等も必要に応じて取り入れることで、相互理解を深め保育に生かすことができた。また、教職員が客観的に自らの保育・教育を振り返ることで新たな課題が明らかになった。それらの課題を教職員間で共有し、園全体の課題として実践していくことで、本園としての保育・教育目標を達成することができると思う。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5. 今後取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	保護者理解と個別対応	園児の家庭状況や変化を把握し、特に配慮が必要な家庭には、状況に応じた対応ができるように心がける。これまでの保護者との連絡方法に加え、新たに連絡アプリ「ルクミー」の機能を取り入れ、保護者とのコミュニケーションをきめ細やかにとれるようにしていく。
2	研修の充実	進んで、園内・園外における研修に参加する機会をもち、自らの保育について見直すともに、保育の質の向上をめざす。また、学んだことを職員間で報告し合うことで、保育に生かしていけるようにする。
3	特別支援教育	支援を必要とする子どもが増え、児童発達支援センターや民間の療育施設を利用する子どもも増えてきている。子どもを理解し、保護者と園、関係機関等との間で、必要な情報を共有し合い、一層密に連携・協力し、支援に努めていく。

6. 学校関係者評価

教職員による自己評価及び保護者による学校評価をもとに評価を実施した。
今後のこども園運営の改善と発展に努めていく。

- ・概ね適切な保育運営がなされている。
- ・子どもたちは、のびのびとした中にも規律ある生活している。
- ・子どもの人権に配慮し、一人一人の個性を伸ばす教育・保育を心がけてほしい。
- ・園行事等を工夫しながら実施することで、子どもたちが園で生き生きと活動する様子や成長していく姿を見ることができる。
- ・安全面や衛生面を重視し、引き続き園内の施設・設備をはじめとした環境整備を進めてほしい。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。